

令和6年度 佐賀大学大学院学校教育学研究科運営協議会議事要旨

日 時 令和6年5月14日（火） 第1部 13:00～14:00
第2部 14:00～15:00

場 所 佐賀大学教育学部1号館1階多目的室

出席者 嘉村佐賀県教育委員会副教育長、岡教職員課長、馬場学校教育課指導主幹（課長代理）、杵島教育振興課指導主幹（課長代理）、野中佐賀市教育委員会学校教育課指導主事（教育長代理）、栗原唐津市教育委員会教育長、佐々木鳥栖市教育委員会教育長、松尾武雄市教育委員会教育長、真子佐賀県小中学校長会副会長（会長代理）、下村佐賀県高等学校長協会副会長（会長代理）、田中西九州大学子ども学部長 【11名】
小野、平田、米田、松尾、堤、野田、後藤、井邑、下田、中島、小松原、江川、江口、木田、松信 【15名】

列席者 許斐、江崎、吉岡

議 事

議事に先立ち小野研究科長から挨拶があり、次いで出席者の自己紹介があった。

【第1部】

1. 令和5年度の運営状況について

先ず、後藤准教授から、資料2-1により、運営状況及び教育課程（教務関係の概要）について報告があった。

次に、井邑准教授から、資料2-2により、学校教育学研究科の入試及び広報、就職関係について報告があった。

次に、井邑准教授から、資料2-3により、県との連携・協力事業関係について報告があった。

次に、研究科長から、これまでの説明を踏まえた質問・意見の発言要請があり、大要以下のような意見交換があった。

① 学部卒学生等の学生募集について他大学からの推薦のような枠や入学に対する優遇措置であったり、他の大学同士で協定を結んだりそういったことはあるか。

→ 現在のところ推薦や優遇措置はないし、協定も結んだいない。本教職大学院は、昨年1度だけ定員割れをしたが、後は定員を満たしているので、まずは、広報活動等に力を入れて、定員を満たすようにしていくことが大事であると考えている。他県にも佐賀県出身の学生で教員になりたいという学生も多いのではないかと考えていて、そのためにも広報活動を努力していきたい。

② 学生の意欲喚起の方策の一つとして、例えば修了生と語る会などは実施されているのか。例えば、大学院を修了して教員で頑張っている先輩が、学生に対して話をす

る場があれば、学生が自分の将来をにらんで、今、一生懸命学んでいるんだなということを実感できるのではないかと考えるがどうか。

→ 現在のところ、修了生と学生が話をするような機会は設けていない。修了生研修会として、修了した1年目に研修会を行っている。ご指摘のような場もあっていいのではないかと考える。

- ③ 教職大学院の方で、県との連携の中で様々な研修の機会等行っていたいただきありがたい。特に、特別支援教育の研修等行っていており、そういった点をさらに充実していただけるとありがたいと思っている。

以上。

【第2部】

1. 学生による成果発表

次の3名の学生による成果発表があった。

- ① 野田 啓子 [授業実践探究コース 2年] (14:05～14:15)
『中学校数学科における数学のよさを感じ得る授業改善』
- ② 岡田 信 [子ども支援探究コース 2年] (14:15～14:30)
『子どものためのメタ認知
ー小学校高学年におけるメタ認知の効果と教授法ー』
- ③ 植松志穂美 [教育経営探究コース 2年] (14:30～14:45)
『「主体的に学習に取り組む態度」の育成と評価を推進するための学科・教科を横断した組織マネジメント』

2. 質疑応答 (14:45～15:00)

米田副研究科長の司会のもと進行され、発表者3名に対する質問・意見等があり、それぞれ発表者からの応答があった。